

# 9/22 「検査検修分科会」誕生!



# 国鉄千葉動力車労働組合

82. 9. 25  
No. 1154

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六)公衆電話三三二七二〇七

## 検修合理化粉碎、10/11三里塚決起の先頭をになう

9月22日、動力車会館において、「検査検修分科会」結成委員会が立ち上げられ、従来の検査分科会と検修分科会の合同による新たな分科会の結成、新役員を選出を行い、三四〇名を擁する動力車千葉第2の分科会が誕生した。検査検修分科会は、直面的な検修大合理化粉碎、10・11三里塚に最先頭で決起することを確認した。

### 結成準備委員 二二名が出席

昨年第6回大会決定方針に基づく組織体制の強化を目的とする「検査・検修分科会の合同は、各支部で一年間の職場討議を積み重ね、9月7日の両分科会の臨時委員会で新分科会結成にむけた準備委員会が発足したのを経て、22日この日の結成委員会を迎えた。

委員会は、議長に選出された滝口委員(木更津支部)の、「検修民託化の大合理化攻撃に対し、検査・検修が一体となって打ち破る決意を固める委員会にしたい」との決意表明で始まり斉藤準備委員長(幕張支部)から、「検修職場が一つにまとまれば強い。今日、結成委員会を迎えたが、有意義な討論を通じて不拔の闘争体制を築いていこう」とのあいさつを受けて議事に入っていた。

### 関川委員長、中江顧問が激励

本部から、関川委員長、中江顧問、吉岡組織部長のあいさつを受けた。関川委員長は「第二臨調―国鉄再建に名をかりた攻撃は、検修合理化・パスの廃止・入浴時間の制限等々に至るまでかけられてきているが、本日をもって動力千葉第2の組織人員を擁する分科会となった検査検修分科の職場にしっかり根づいた力ではね返し、既得権・労働条件を守りぬいてほしい」と激励した。

また、動力の初代検修分科(当時は技工分科)会長として、検修職場の労働条件向上のために闘いぬいてきた中江顧問は、31年間の感慨をこめ、同時に、つぎつぎと体制内にくみこまれ右翼労働戦線に傾斜していく今日の労働運動の後退を批判し、今こそ労働運動の原点・原則に立ちかえって闘うことの決定的重要性を訴え、「動力千葉の組合員は、原則を崩さず闘い続けることを通じて、職場のすみずみに至るまで一人一人が支配権力の攻撃の意図を見ぬき闘っている。動力千葉こそが全国の先頭にたって動力の戦闘的伝統を復活させ、創造性をもって継承・発

展させてゆく中核的使命を担って欲しい」とあいさつするとともに、来年度の船橋市議選立候補の決意を表明し、全参加者は熱烈な拍手でこれを確認した。

### 新分科会結成を満場一致で確認

吉岡組織部長から、われわれをとりまく情勢と闘う方向性が明らかにされ、つづいて高田準備委員長(勝浦支部)から、「経過報告」と「活動方針」が、又、林事務長(本部特執・幕張支部)から「一九八二年度予算案」「規約規則の改正案」が提案された。

結成委員会は質疑応答の後、新役員を選出し、斉藤新分科会長の音頭で団結ガンパローを三唱し、大成功のうちに終了した。

### 一九八二年度「検・修分科会」役員

- |       |                    |
|-------|--------------------|
| 会長    | 長・斉藤 常男・幕張・三八才・検査係 |
| 副会長   | 長・高田 興治・勝浦・四四才・検査係 |
| 事務長   | 林 熊吉・幕張・四六才・検査係    |
| 執行委員  | ・加瀬 武正・新小岩・三七才・検査係 |
| 執行委員  | ・川崎 昌浩・津田沼・二三才・検査係 |
| 執行委員  | ・山田 護・木更津・二五才・検査係  |
| 会計監査員 | ・小堀 明・成田・五二才・検査係   |
| 会計監査員 | ・鈴木 弘幸・佐倉・二一才・検査係  |
| 常任委員  | ・阿津 浩幸・新小岩・二二才・検査係 |
| 常任委員  | ・渡辺 敏博・津田沼・三七才・検査係 |
| 常任委員  | ・吉野 幸成・幕張・三三才・検査係  |
| 常任委員  | ・渡辺 浦吉・蘇我・五四才・検査係  |
| 常任委員  | ・滝口 誠・木更津・三三才・検査係  |
| 常任委員  | ・鈴木 正和・館山・四一才・検査係  |
| 常任委員  | ・鶴沢 浩・勝浦・三九才・検査係   |
| 常任委員  | ・小川 信男・佐倉・三八才・検査係  |
| 常任委員  | ・岩田 喬・成田・三三才・検査係   |
| 常任委員  | ・林 信一・銚子・三八才・検査係   |